

教	育	環	境	分	科	会	選	出
---	---	---	---	---	---	---	---	---

教育環境分科会 2011 年度第 1 回会合 より

大阪大学における留学生支援の現状
— 留学生に魅力的な大学とは？ —

大阪大学 国際教育交流センター
近藤 佐知彦

大阪大学における留学生支援の現状 －留学生に魅力的な大学とは？－

大阪大学国際教育交流センター
近藤佐知彦

[アブストラクト]

Global Campus Net, Osaka(以下 GCN)とは 2003 年度から大阪大学で運用されている「留学生のための情報ポータルサイト」です。留学生や外国人研究者を対象としてネット上のワンストップサービスを目指したものです。ユニコード利用の多言語 BBS を一つの核として、日本語教育、奨学金情報、ビザ情報、リサイクル情報、保健医療情報、子育て情報などに加え、外国人可の住宅情報まで、大学関係者だけでなく自治体や NPO、企業の協力も得て外国人フレンドリーなキャンパス環境を創造してきました。もともとは工学研究科で始められたプロジェクトですが、様々な変遷を経て 2010 年度からは国際教育交流センター内に開設された「サポートオフィス」でマネジメントすることになりました。対面ワンストップサービスであるサポートオフィス業務を補完するものとして位置づけられています。大学国際化拠点整備事業(いわゆる Global 30)採択に伴って、2010 年 4 月には全面的なサイトリニューアルを行いました。そして ID 取得者を対象に希望条件を不動産業者と「交渉」することが可能になる「住宅リクエスト」、タクシーによる関西空港からの「送迎サービス予約」システム、そして日本人学生を対象とした「チューター希望者登録」システム等の新機能・サービスを付け加えています。本学の正規ホームページは日英両語に完全対応となり国際化が進んでいます。しかし外国人にとって重要な生活情報やサービスが「.ac.jp」のサイトだけで提供できるわけでもありません。NPO や企業の支援も受けた垂直的な情報やサービス提供に加え、外国人同士の水平的な情報流通環境(BBS)も GCN で整備をしつつ、大阪大学ではキャンパスの国際化を推進しようとしています。

[キーワード]

留学生支援、多文化共生、情報ポータル、オンラインコミュニティ、大学国際化、地域国際化

1. はじめに

大阪大学の留学生・外国人研究者を主な対象としたオンラインコミュニティサイト、Global Campus Net Osaka(以下 GCN)は、工学研究科留学生相談部、芦沢真五助教授(現明治大学特任教授)が 2003 年度から 2005 年度にかけてフロンティア研究機構の助成金を受けて行った実証研究を母体としてスタートした。2006 年から 2009 年の間は創立メンバーの一人だった筆者が代表を引き受け、研究室内に運営事務局を置いた。現在 GCN は Global 30 後に国際教育交流センターに設置されたサポートオフィスが運営しているが、筆者もアドバイザーとして関わっており、その立場から報告を行いたい。

GCN の第一の目的は、留学生・研究者が来日前、来日後、帰国前、帰国後それぞれの段階で必要な情報をオンライン上で得られるという「ワンストップサービス」をオンライン上で実現することにあつた。同時に大阪大学の留学生や研究者の受入れを担当する教職員が必要な手続きについて調べたり、大阪大学周辺の地域住民(日本人・外国人問わず)が情報を授受するのに役立たせることも出来るため、学内関係者や地域の人々の広い意味での国際化に関するポータルとして機能することも意図されてきた。外国人に関する必要情報を選択・集中し、垂直的・もしくはトップダウンで提供する「情報ポータル」としての機能が集約されれば、外国人にとってはキャンパスの魅力が向上し、外国人をサポートする側にとっても利便性が高い。

第二の目的は、「コミュニティ・ソリューション」という概念を用いて、情報を一方的に得るだけでなく、サイトに参加しているすべての関係者が必要に応じて情報提供者となりうる「場」を提供することが構想された。目的にかなったサイト設計を行い、また適切な運用ができるならば、オンライン上で外国人によって外国人の問題を解決するコミュニティができるのではないかと、という発想がその根本にある。具体的な事例は後述するが、多言語掲示板 BBS では提供してそれぞれの自国語で書き込みができるようにするなど、外国人による外国人のための「水平的な相互扶助の場」を提供しようという発想があつた。

大学国際化と一言で言っても、それは大学の構成員だけで達成できるものではない。GCN 第三の機能として、志を同じくする学内のみならず地域有志や NPO のパワーを結集し、また行政やビジネスの受け皿になるこ

とがあげられる。外国人同士のコミュニティ・ソリューションに加えて、「キャンパス周辺の力を取り込むサイト」として構想されたのが GCN なのである。そのためには外国人にサービスを提供するための企業との連携も視野に入れる必要があり、従来の「.ac.jp」の URL を持つサイトから、多少の距離を置いたサイト運営が必要となってきた。垂直的、水平的な留学生のサポートという概念に加えて、地域からの面的な広がりを持たせて支援するという発想である。

本稿では GCN のコンテンツを紹介し、上記三つの観点から GCN がどのように運営されているのか、またどのような課題を抱えているのかを論じたい。以上を通じて「留学生支援」という側面から、大学におけるオンラインコミュニティの運営について話題を提供できればと考える。ちなみに URL は「<http://www.gen-osaka.jp/>」であり、実際のサイトを参照しながら読み進んでいただくとありがたい。

2. GCN のコンテンツ

GCN では多数のコンテンツメニューを用意している。以下、それぞれのコンテンツについて説明を行う。

2.1 日本語学習

初級レベルの日本語学習者のための「GCN いちよう日本語」、理工系日本語学習教材、2004 年度に開発された「キャンパス単語帳」、「場面会話集」、2005 年度に開発された「学校単語帳」そして『漢字と言葉』自主学习システム等が中核となる。

「GCN いちよう日本語」は、大阪大学に所属する研究者、留学生や研究者の配偶者を対象にした国際教育交流センターの配偶者・研究者向けクラス「いちよう日本語」の授業内容にそったかたちで作成された。当時「いちよう日本語」を担当していた講師によって開発され、日本語の自学自習リソースとして利用すると同時に「いちよう日本語」参加者の復習や欠席した授業の内容の補習としても昨日するように企画された。テキスト、クイズなどがダウンロードできるようになっている。

「キャンパス単語帳」は、大学のなかで日常よく耳にするキャンパス独特の省略した言葉（追試、学食など）や、大阪大学独自の言葉「再履バス」（注：吹田、豊中キャンパス間を結ぶ連絡バス・共通教育科目の「再履修」のために使う学生が多い）、「館下」（注：豊中キャンパス図書館下の食堂）、北摂地方独特の言葉「いないち」（注：国道 171 号線）、「千中」（注：千里中央）などローカルな言い回しを集めた単語帳であり、現在 165 単語を掲載している。これらの言葉は、日本語教育では通常教えられることが少なく、日本語の流暢な外国人であっても理解することが困難である。単語帳を開発するにあたり、現役の学生（日本人学生および留学生）にヒアリング調査を行い、彼らが日常の会話で頻繁に使っている単語を取り上げた。なかには教授や世間一般の人には使っても分からない、あるいは失礼にあたるような若者の間でしか通用しない単語もあり、使用には注意を払うことを明記している。1 単語につき 1 ページを使用し、英訳や読み方、その他の情報を掲載し、音声で発音も確認できるようになっている。

「学校単語帳」は、札幌のボランティア団体「あかり」（当時）が作成した学校で使用される用語集「みんなで一緒に」から提供を受け、大阪地域のものに合うよう改良を加えたものである。掲載単語としては、「校長先生」「算数」「靴箱」などがあり、全部で 331 単語掲載している。英語のほか、中国語、韓国語、スペイン語での翻訳がある。翻訳だけでは理解が困難なものについては、説明や写真を掲載した。主に小学校に通う子供をもつ留学生や研究者だけでなく、地域に住む外国人にも利用していただけるものと考えている。

『漢字と言葉』自主学习システムは、国際教育交流センターの教授が出版した漢字学習教材『例文で学ぶ漢字と言葉』（スリーエーネットワーク、2005 年）をオンライン上で練習・テストできるように開発されたものである。日本語能力試験 2 級の漢字 1,023 字および語彙 2,920 語について、無作為に抽出して練習できるようになっている。学習（成績）履歴も残すことができる。

GCN の ID 申請時でのコメントに、「日本語を学習したいから」というものがしばしばみられ、留学生等を GCN に誘引する際のキラーコンテンツになっていることが読み取れる。しかしサイト開設から相当の時間が経過したため、内容の陳腐化や e-learning ソフトのサポートの問題なども発生しており、今後ともこれら利用者のニーズにあった学習教材を開発していく必要がある。もちろん e-learning だけではなく、近隣の NPO 等による日本語教室情報も掲載して、多彩な日本語学習ニーズが汲み上げられるよう努力をしているところである。

2.2 地域情報・生活情報・ビジネスとの連携

留学生や研究者も地域に暮らす一住民として受け入れなければならない。また周辺地域に溶け込めねば大学での研究成果も上がらないかもしれない。GCN では、地域情報の提供にも力を入れてきた。

「保健・医療」では、外国人が健康に暮らせるための情報提供を行っている。特に、制度、生活習慣の違いから理解できない項目や専門的なことばについて平易な表現を用い、分かりやすく説明を行っている。コンテ

ンツには、「国民健康保険の説明」、「救急時の対処」、「各種医療機関の紹介」、「多言語問診表の掲載」などがある。このコンテンツは、外国人の医療問題を専門に研究を行っている人間科学研究科の教授および大学院生にコンテンツ作成をしていただいた。

「子育て」では、「子供の健康管理」、「地域の保育サービス」、「子育てサポート情報」、「学校」、「アレルギー」、「虐待」、「困ったときのお役立ち情報」など、子供を持つ外国人にとって有益な情報の提供を行っている。

「暮らし」では、「災害時の対処方法」、「交通事故の処理方法」など実際の生活を営んでいくために必要な情報を NGO の協力を得て掲載している。大阪近郊各市の情報として、豊中市からは、豊中市が発行するお知らせの英語、中国語、韓国語、スペイン語版によるチラシの提供を受け、掲載している。

2005 年度に開発された「住宅情報」コンテンツでは、大学内外の宿舎情報を掲載しており、地域の住宅斡旋業者の協力を得て、最新の宿舎情報を提供している。住宅情報検索システムを導入しており、地域、家賃、広さ、などの好みにあった項目を選択し、物件を検索することができる。留学生のニーズに合わせ、地域の協力業者には、比較的安い家賃(保証金)で家族も住める物件を提供するよう依頼している。

2010 年には新たに「住宅リクエスト」も付加した。

これは留学生等が希望条件を打ち込むと、その条件に叶った、もしくは近い条件の物件について、いくつかの不動産業者から個別に連絡をして頂くものである。前記の「住宅情報」コンテンツが町の不動産屋さんの窓ガラスに張られた物件情報を眺める、といった閲覧型のものであるのに対し「住宅リクエスト」は、そのガラス戸を開けて不動産屋のおじさんとコンタクトをするところまでを支援しよう、という試みと考えていただきたい。大阪大学生協など、信頼できる複数の不動産エージェントにご協力頂いており、新しく学生が渡日する時期や、学内宿舎を出ることになった学生が次の宿舎を探す時期を中心に、毎月数件から数十件の問い合わせが入り、それぞれに対して 2-3 件のレスポンスを得る状況となっている。

本学では 1600 人程度の留学生数に対して、学内宿舎が 350 人分程度、学外に手配することが出来る公的宿舎が 350 人程度にとどまる。留学生宿舎の増設など根本的な解決が望めそうにない状況下では、民間エージェントの力を活用した積極的な情報提供をもって、大学として供給できる戸数と必要戸数の間のギャップを埋めていく工夫が必要になるとかんがえ、現在積極的にテコ入れをしている部分である。

そしてまったく新しいコンテンツとして 2010 年から運用を開始したのが、タクシーによる「関空送迎予約」サービスである。阪大の関連宿舎施設等にアクセスが必要な方に、比較的安価な協定料金で関西国際空港からのリムジンサービスを提供する、と言うもので、個人タクシーのグループと協定を結んでサービス提供をお願いした。グループからご提示頂いたのは、メーター料金よりも格安で、しかも高速料金込みの固定料金であり、数人でシェアをすればリムジンバスを利用したり電車を乗り継ぐより安くなる場合も多い(迎えが 1 台 17000 円、送りが 1 台 19000 円)。なによりも、関西空港に着陸した時点でプロフェッショナルな「お迎え」が来ているという安心感が重要ではないだろうか。現時点ではさほど利用は伸びていないが、今後に期待できるサービスだと考えている。

2.3 日本人学生向けに

「留学」では、大阪大学から海外に留学する学生が必要な情報を掲載しており、サマープログラム、交換留学などの紹介、手続きなどの紹介を行っている。大阪大学独自の派遣のための奨学金の情報も掲載している。

もう一つ力を入れているのは「チューター登録システム」だ。

大阪外国語大学との統合後、本学学生の中には外国人留学生との交流の機会を求める声が高い。一方、様々な受け入れプログラムが開発される際に「学生チューター」を活用して、参加留学生と日本人在学生双方の国際性を一気に高めたい、という気運も盛り上がってきた。そのため日本人学生に GCN の ID を積極的に取得させ、チューター希望者として GCN 内で登録を促進、プログラムが必要とする場合には運営者が声をかけることが出来る候補者としてプールしておく、という運営をはじめた。運用開始以来約一年の現時点では 300 人弱が登録しており、積極的な日本人チューターの存在が、本学にやってくる留学生と大いに交流し、大学の魅力を高めてくれることを期待しているところである。

2.4 大学内外の必要情報

GCN は留学生にとってニーズの高い情報を提供している。

「奨学金」では、留学生に関係する奨学金情報を掲載しており、最新の奨学金情報を提供している。大阪大学全体の奨学金であれば、その都度掲載する。これは、学内の掲示板に貼っているものと同じではあるが、掲

示板に見に行かなくても、学外からもアクセスしみる事ができるため、留学生にとっては便利なツールであると思われる。もちろん部局ごとの奨学金情報も掲載することができる。

「求人情報」では、留学生のための就職情報や企業説明会情報を提供している。留学生に対する企業からのニーズの高まりにあわせて、今後は様々な企業の求人情報アルバイト情報を掲載していく予定であるが、現時点では情報の選別についてキチンとした方針が立てられていない恨みがある。そのため現時点ではキャリアセミナーなどの直接の求人情報ではない情報などが提供されている場合が多い。

2006 年度に開発された「ビザ」では、留学生・研究者に関係のあるビザの情報を提供している。留学生・研究者は、来日前、一時帰国、家族呼び寄せ、更新、滞在延期、資格変更、資格外活動、など、その時々に応じてビザになる情報を、記入例を記載したり、書類がダウンロードできるようにするなど、行政書士の監修のもと必要な項目を網羅した。

一方、2010 年以降、強化されたサポートオフィスでは、web を利用して新規渡日者の CESR(在留資格認定証明書)の取得を支援するシステムを構築しており、一部その機能や対象者の重複が発生している部分にもなっており、今後、調整を考えている。

2.5 多言語掲示板

プログラム創設時から本サイトの大きな特徴の一つは、掲示板への書き込みが多言語で行えることである。サイトは日英の併記であり、どちらかの言語ができれば、情報は全て入手できるようにデザインされている。しかし、本学の留学生のうち大多数は、日本語、英語ともにネイティブでない者であり、またその配偶者家族なども視野に入れたサイト運用のためには多言語によるサポートが適当であると考えられた。

外国人関係者が多言語掲示板を利用し、母語で質問の書き込みを行い、その言語の分かるものが回答し、問題を解決できるという「水平的」かつ自律的な相互扶助を可能にすれば、大学側のケアの労力を多少なりとも削減出来る。またそれは大学の状況を「先輩」が「後輩」に伝える場ともなり、大阪大学について情報の乏しい留学希望者などにとっては、キャンパスや周辺環境の「見える化」につながる。

実際にあった書き込み・質問の例としては、ムスリムの研究者帯同家族からの質問として、大学周辺に外から見えない(ガラス張りではない)美容院があるのか、という質問があった。少し考えてみればわかる話なのだが、こういった質問・疑問は日本人だけで外国人支援のシステムを構築する時には見落としがちなポイントである。美容室は明るいガラス張り、という固定観念を持っていた筆者にとっては、大学の魅力向上にはこういった視点も必要なのか、と深く考えさせられる契機となった。

BBS は、こういった質問に「先輩ムスリム」が情報提供をするような形で、外国人同士の相互扶助が行われることを目指してきた。そのやり取りがそれぞれの言語で行われることにより、本学周辺の環境や「暮らしやすさ」などを、先輩留学生が広報してくれる態勢を整える、それが GCN 創設時から BBS に期待された大きな役割である。

2.6 GCN Worldwide

GCN Worldwide(GCN-WW)は、以前は別サイトであったが、2006 年 5 月に GCN に統合された。GCN-WW は、大阪大学同窓生のためのサイトであり、主に大阪大学を卒業(修了)した留学生、海外在住日本人卒業(修了)生を対象としている。GCN-WW の中身は、一言で言えば選択的メール送受信システムであり、登録しているメンバー(注:学生は在学時代の ID を引き続き使用。また希望があれば身元確認の上発行している)を国名、出身部局などの条件で検索し、検索された同窓生あてにメッセージが配信できる、というものである。例えば、某国で同窓会を開催したいときに、某国在住の同窓生にあててメッセージを送信し呼びかける、海外に学会に出かけるときに現地に住んでいる同窓生から情報をもらう、など、その利用方法は様々考えられる。

2006 年 10 月には、新たに「総長からの挨拶」、「阪大生は今」、「拠点便り」、「各種情報」のコンテンツを加えた。「阪大生は今」では、同窓生から阪大での思い出、現在の仕事や行っている活動について文章と写真入りで紹介している。「拠点便り」は、大阪大学が設置している海外拠点(教育研究センター)、サンフランシスコ(米国)、バンコク(タイ)、グローニンゲン(オランダ)に駐在している職員からセンターの活動報告や業務内容、現地の状況などについて報告をいただいたものを掲載してきた。

現時点で自戒の念を込めてコメントすると、オリジナルの GCN をデザインする時、我々の念頭にあったのは GCN-WW を(バーチャルな)大阪大学の国際同窓会として機能させることは出来ないか、という問題意識だった。大学のサイトにアクセスする ID は学籍や身分がなくなると使えなくなる。一方 GCN の ID については、卒業後もそのまま使えるため、その ID を利用すれば、GCN は卒業後も大学とつながっていく「場」として使えるのではないかと目論んでいた。その意気込みやアイデアについては先進的なものがあつたと自負している。残念な

がら BBS も GCN-WW も現時点では思ったほどの成果は上がり、また、Facebook など SNS 系のサイトの台頭によって我々が意図してきたところの多くの部分を実現しはじめた、と言う印象を持っている。

3. GCN が目指したところと現実、そして運営体制

以上コンテンツを概観したところで、若干のコメントを加えながら運営におけるポイントをコメントしてみたい。まず「日本語学習」は外国人にとって常にニーズが高く、GCN 加入の大きなモチベーションになり得る。この日本語教材を ID 取得者のみにアクセス可能にすることで、事務局としてはアクティブなユーザーを増やすという意図があった。そしてコンテンツ毎のアクセスデータを見る限り、その意図は十分に果たされている。今後は内容の陳腐化、開発時以来の OS の変遷などもあり、ソフト更新の必要性など、日本語をキラーコンテンツとし続けるためには、いくつかの課題が残っている。

垂直的な情報提供としては、奨学金情報、住宅情報の掲示や地域イベントの告知など、比較的一方的に主催者側・大学側から情報が流れるような豊富なメニューを用意してきた。また医療・子育て情報など、日本や地域に特有で、しかも人によっては非常に重要な情報についても、一覧性を高めた上で網羅することで、本学が外国人それぞれのニーズに真剣に向き合おうとしている、というメッセージを発することにもなる。外国暮らしは多少なりとも不安なはずで、GCN が外国人フレンドリーな大阪大学をアピールするツールとして、いろいろな局面で使われている。ただし、豊富なメニューをアップデートし続ける努力はなまかななものでは済まない。そのために、限られた人員の中で、内容の精選と精査、そして必要情報の吟味が求められている状況である。

水平的な相互扶助(多言語掲示板 BBS)に関しては、構想段階で中心に据えられたテーマであった。しかし現実としては一般的な BBS として、リサイクル情報、イベント情報の告知などに使われるに止まるケースが多い。残念ながら当初の目論見のように、多言語である利点を生かして「新規渡日者の(母語での)不安表明→日本滞在者による(母語での)助言→新規渡日者の不安解消→第三者の学生に対しても、本学キャンパスと周辺環境の『見える化』』という明確なサイクルを形成するまでには至っていない。しかし、先に示したムスリム女性の美容院問題のように、我々が気がつかなかったポイントを炙り出すユニークな機能があり、問題発見ツールとしてその部分を生かすことが今後の課題となる。

同様に GCN-WW もタイ同窓会や北米同窓会での同窓生への呼びかけなどに使用された実績はあるが、非常に活発に使用されている、というレベルにはない。現在若者達の間でそのような役割を担っているのは SNS 等のサービスのように思われる。2003 年に構想された時には相当先進的かつ野心的な企画であったと思われるが、今後もっと留学生等を惹きつける仕掛けをどう組み立てていくかについて、真剣な検討が必要であろう。

地域やビジネスを巻き込んだ「面的なサポート」は、現在のところ GCN がもっとも力を入れてすすめている部分であり、また効果が出ていると自己評価している。「住宅リクエスト」や「閑空送迎サービス」等がこれにあたる。対面ワンストップサービスである「サポートオフィス」は学内組織として、ある程度の中立性を保たねばならない。したがってサポートオフィス自体の HP にも企業やビジネスとの関係情報などは掲載することができない。一方サーバーを学外に置き「.ac.jp」ドメインをもたない GCN では、金銭の授受などには関与しないものの、比較的柔軟にそれらの情報やサービスを取り込んできた。そしてそれを売り物にしている。GCN 運用によって本学が学生をサポートするために何が必要かを「建前」にとらわれずに提供出来る受け皿を得たとも好意的に評価出来るのではなかろうか。

現在 GCN の運営事務室は国際教育交流センター内のサポートオフィス(正式名称は Support Office for International Students and Scholars)におかれている。ちなみにサポートオフィスの業務は国際交流室の下におかれた「サポートオフィス運営委員会」によって所掌されており、GCN も含めて全学にサービスする全学の組織、という性格付けとなっている(筆者も委員の 1 人)。サポートオフィスは 2 名の教員(特任准教授と特任助教)と 2 名の特任職員、そして数名の非常勤職員によって運営されているが、その中でも特任助教が各種業務の一環として GCN の統括にあたり、非常勤職員によって日々のメンテナンスが行われている。メンテナンスとしてはコンテンツの配信に始まって BBS 書き込みのチェックやサイト管理、ID 希望者の身元確認と ID 発行、GCN の管理会社との連絡や交渉等までが含まれており、きわめて多忙な内容となっている。ちなみに財政的な基盤としては Global 30 による補助金をもって充てられており、特に Global 30 採択初年度には、サイトデザインのリニューアルやいくつかの新機能の付け加えなど、サイトのリフレッシュが図られてきた。

4. むすびに代えて

最後にいくつかのデータを示しつつ稿を閉じる。

2004 年 2 月にサイトを立ち上げて以来、発行された ID は 7764 件(8 月まで)に上る。過去一年の訪問数は 56,537 件。ユーザー数は 35,475 のユニークユーザーがいた。たとえば BBS への書き込みや日本語教材利用、

もしくは「住宅リクエスト」を出す権利を持つユーザーは8000人弱としても、とにかく情報を利用する、もしくは単にBrowseするユーザーが多数いることから、これらの利用者に対して「キャンパス環境を『見える化』する」努力をアピールするために、もっともっとGCNは利用できるだろう。

目下のところFacebookなどを通じて、コミュニティを繋ぎ、パーソナルな情報流通を活発化する動きが進んでいる。GCNが目指すローカルなコミュニティでは、できれば大学キャンパス周辺の空気の匂いや、竹藪のざわめき、そしてキャンパスや周辺の住民の息づかいを伝えられるような、そういうサイトを目指していくべきだと考える。そのためにどうすればいいかを今後とも全学で考えていく必要があるだろう。

また近隣のコミュニティと共生していくため、仮に互恵的なビジネスが成り立つならば、そういうものを取り込んでいってこそその「コミュニティ・ソリューション」と思われる。多い時には月に40件以上の問い合わせがあった「住宅リクエスト」がその一例だが、閑空送迎サービスなども利用の伸びを期待しているところだ。また「チューター登録」も、外国人をサポートしたい日本人学生と、日本人の友達を作りたい外国人留学生との間の互恵的な関係をつなぐ仕組みであり、どちらにも利益がある。大阪生まれのサイトに相応しく、GCNは関係者全員にとって「お得な」サイトでありたい。

そして前節までで触れたようにGCNは「.ac.jp」から自由なサイトとして、「建前」にとらわれない利点を大いに利用してきた。今後はこの柔軟性を維持しつつ、「しがらみ」にもとらわれず、自由闊達でかつ外国人フレンドリーな校風を作っていく、大阪大学の大きな基礎に育ってもらえれば、と願っている。

【参考文献】

近藤佐知彦・渡部留美「大学における留学生・研究者のためのオンラインコミュニティ GCN(Global Campus Net) Osaka の運営現状と課題」『多文化社会と留学生交流』11号(PP65-72)2007年
金子郁容「新版コミュニティ・ソリューション: ボランティアな問題解決に向けて」岩波書店 2002年

Global Campus Net, Osaka GCN Osaka

近藤佐知彦

大阪大学国際教育交流センター
skondo@hpc.cmc.osaka-u.ac.jp

GCN

- <http://www.gcn-osaka.jp/>

GCN-OSAKA.jp TOP/トップ - Windows Internet Explorer

http://www.gcn-osaka.jp/

Global Campus Net, Osaka
Community Site for International students and Visiting Scholars at Osaka University
www.gcn-osaka.jp

Welcome to Global Campus Net, Osaka

GCN-OSAKA.jp TOP/トップ

English Japanese both (English / Japanese) > HOME > LINKS > FAQ > SITEMAP

Google 検索

WWW を検索 gcn-osaka.jp を検索

GCN-OSAKA.jp TOP/トップ

Learning Japanese 日本語学習 Financial Aid 奨学金情報 VISA ビザ Housing 住宅情報 Recycle Goods 物品リサイクル

Living in Osaka 暮らし Health & Medicine 保健・医療 Child Care 子育て Employment 求人情報 Events 行事情報

Study Abroad 留学情報 English Studies 英語学習 BBS 掲示板 Group BBS グループ掲示板 Member Login ログイン

What's New 新着情報

Please find more topics in each content menu. / 新着以外の情報は各コンテンツメニュー内で見れます。

Date	Type	Subject
2010/09/24	Housing / 住宅情報	Housing Info ouc -450 228-1
2010/09/21	Housing / 住宅情報	UR賃貸住宅。外国人研究者向け住宅(単身、ご夫婦に最適)⑥

ID

Password

Login

インターネット | 保護モード: 有効 100%

トップページ - 大阪大学 - Windows Internet Explorer
 http://www.osaka-u.ac.jp/ja

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
 x ATOK

お気に入り おすすめサイト Web スライス ギャラ...

トップページ - 大阪大学

文字サイズ 小 中 大 アクセスマップ | お問い合わせ | 関連リンク | よくあるご質問 | 資料請求 | RSS | ENGLISH | Google カスタム検索 | 検索

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

高校生 受験生の方へ | 在学生の方へ | 卒業生の方へ | 一般 地域の方へ | 企業 研究者の方へ | 教職員の方へ

原点へ 未来へ OSAKA UNIVERSITY 地域に生き世界に伸びる

ホーム | 最新情報 | 大学案内 | 学部・大学院・施設 | 教育・研究活動 | 入学案内 | 阪大スタイル | キャンパスライフ

ニュース&トピックス [一覧 >>](#) [RSS](#)

- 2011年8月29日 (月) [平野総長就任挨拶](#) [教職員](#)
- 2011年8月26日 (金) [平野俊夫第17代総長就任](#) [すべての方](#)
- 2011年8月24日 (水) [【急募】聴覚障害を有する学生の「集中講義\(9月\)」におけるノートテイカー急募!](#) [在学生](#)

東日本大震災について
 東日本大震災に関する本学の様々な対応についてお知らせします。

ようこそ総長室へ
 大阪大学総長 平野俊夫からのメッセージ

大阪大学へ留学したい方 - 大阪大学 - Windows Internet Explorer
 http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/international_students/inbound

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
 x ATOK

お気に入り おすすめサイト Web スライス ギャラ...

大阪大学へ留学したい方 - 大阪大学

文字サイズ 小 中 大 アクセスマップ | お問い合わせ | 関連リンク | よくあるご質問 | 資料請求 | RSS | ENGLISH | Google カスタム検索 | 検索

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

高校生 受験生の方へ | 在学生の方へ | 卒業生の方へ | 一般 地域の方へ | 企業 研究者の方へ | 教職員の方へ

大学案内

ホーム | 最新情報 | 大学案内 | 学部・大学院・施設 | 教育・研究活動 | 入学案内 | 阪大スタイル | キャンパスライフ

ホーム > 大学案内 > 海外留学 (受入・派遣) > 大阪大学へ留学したい方

大学案内

- [ようこそ総長室へ](#)
- [大学の概要](#)
- [学生生活](#)
- [国際交流](#)
- [海外留学 \(受入・派遣\)](#)
 - 大阪大学へ留学したい方
 - [International Programs at a Glance](#)
 - [国際化拠点整備事業 \(大学国際化のためのネットワーク形成事業\)](#)
 - [交換留学受入情報](#)
 - [留学生のための入試情報](#)

大阪大学へ留学したい方

International Programs at a Glance

大阪大学は、日本の技術革新に貢献するとともに、世界をリードする研究型大学として知られています。また、文部科学省が推進する「グローバル30」採択校であり、日本の大学国際化に重要な役割を果たしています。地域社会や産業との連携、分野横断型の研究や教育、常に新しいものに立ち向かう姿勢は、西日本の経済・文化の中心地「大阪」という町の歴史や、この地で育まれてきた特有の進取の気性から生まれたものです。大阪大学は、過去を活かし、未来を紡ぎ出す大学です。

国際化拠点整備事業 (大学国際化のためのネットワーク形成事業)

- [インターナショナルカレッジ](#)

作成中

大阪大学へ留学したい方 - 大阪大学 - Windows Internet Explorer

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/international_students/inbound

シラバスは開講年度の直前の3月ごろから順次閲覧可能になります。

▶ [英語による科目](#)

交換留学生が履修できる英語による科目を掲載しています。

[留学生のための入試情報](#)

[国際教育交流センター](#)

[大阪大学日本語日本文化教育センター](#)

[留学生のための生活情報ガイドブック](#)

[大阪大学キャンパスマップ](#)

[Global Campus Net \(GCN\) Osaka及びGlobal Campus Net, Worldwide \(GWW\)](#)

[大阪地域留学生等交流推進協議会](#)

[外部研究者、留学生、附属病院患者（またはその家族）向け宿泊施設](#)

[大阪大学の外国人向け宿舎](#)

Top page - Osaka University - Windows Internet Explorer

http://www.osaka-u.ac.jp/en/index.html

2011-7-27 (Wed) [Students, you can now visit Tekijuku for free!](#)

2011-7-27 (Wed) [Agreement on Network Promoting Relationships in Internationalization among Four Universities](#)

Events [View all >>](#) [RSS](#)

2011-9-7 (Wed) 11:00 a.m. - [2nd Joint Company Explanatory Session for the 4th year undergraduate students and 2nd-year students in the](#)

Seminars & Symposiums [View all >>](#) [RSS](#)

2011-9-5 (Mon) 4:30 p.m. - [Advanced Seminar Series on Microbiology and Immunology](#)

2011-9-7 (Wed) 2:00 p.m. - [23rd University-Industry Lecture, Graduate School of Engineering Science](#)

2011-9-9 (Fri) 1:00 p.m. - [iPrism Copyright Symposium](#)

2011-9-14 (Wed) 4:30 p.m. - [ISER & GCOE Behavioral Economics Joint Seminar -- Michael Grossman \(City University of New York and NBER\)](#)

2011-9-14 (Wed) 6:30 p.m. - [Osaka University & Osaka Gas: Academic Cooking, Vol. 12 - "Introduction to World History by a Gourmand Historian --](#)

research.

COE Programs
Information about the Center of Excellence Programs at Osaka University

Student Exchange
Thinking about university study in Japan? Look at the various plans and supports at Osaka University.

GCN Osaka
A community site for international students and researchers at Osaka University

80th Anniversary
Osaka University celebrates its 80th Anniversary in 2011. Special events, seminars, lectures, and more are scheduled. Go here to [learn more!](#)

Support Office
for International Students and Scholars

Annual Report
Academic achievements of Osaka University, papers chosen from the various research fields of Osaka University

Meet the President
A greeting and messages from Toshio Hirano, the president of Osaka University.

Catalogue of Researchers
You can find out about researchers

大阪大学サポートオフィス - Windows Internet Explorer

http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/osaka-ip/supportoffice/index-j.php

サポートオフィス 大阪大学

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

× ATOK

★ お気に入り

大阪大学サポートオフィス

English Chinese Korea

大阪大学サポートオフィス
for International Students and Scholars, Osaka University

サイトマップ | サポートオフィス運営委員会

ようこそ | サポートガイド | ピザ | 住居 | **GCN Osaka** | オリエンテーション | 日本での生活 | キャリアサポート | FAQ | 資料

このページを翻訳する

言語を選択

Powered by Google 翻訳

新着情報 [過去のお知らせ](#)

部局担当者へのお知らせ [その他](#)

[新規来日外国人留学生・研究者対象オリエンテーション開催（9月）について](#)

[新規来日外国人留学生・研究者対象オリエンテーション開催（9月）について](#)

GCN-OSAKA.jp TOP/トップ - Windows Internet Explorer

http://www.gcn-osaka.jp/

GCN Osaka

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

× 変換 選択

★ お気に入り

GCN-OSAKA.jp TOP/トップ

English Japanese both (English / Japanese) > HOME > LINKS > FAQ > SITEMAP

Global Campus Net, Osaka
www.gcn-osaka.jp

Welcome to Global Campus Net, Osaka
Community Site for International students and Visiting Scholars at Osaka University

Google 検索

WWW を検索 gcn-osaka.jp を検索

GCN-Osaka is a community site oriented to provide information mainly for international Students and Visiting Scholars at Osaka University

Learning Japanese 日本語学習 Financial Aid 奨学金情報 VISA ピザ Housing 住宅情報 Recycle Goods 物品リサイクル

Living in Osaka 暮らし Health & Medicine 保険・医療 Child Care 子育て Employment 求人情報 Events 行事情報

Study Abroad 留学情報 English Studies 英語学習 BBS 掲示板 Group BBS グループ掲示板 Member Login ログイン

What's New 新着情報

Please find more topics in each content menu. / 新着以外の情報は各コンテンツメニュー内で見れます。

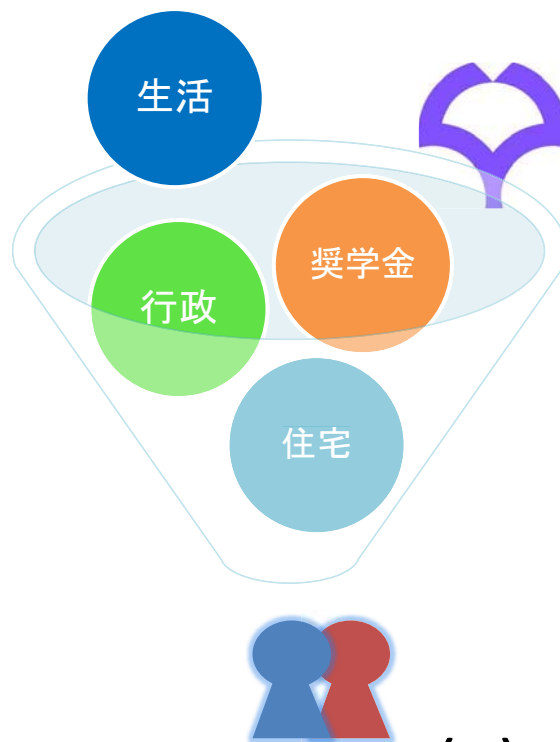
Date	Type	Subjet
2010/09/24	Housing / 住宅情報	Housing Info ouc-450 228-1
2010/09/21	Housing / 住宅情報	UR賃貸住宅。外国人研究者向け住宅(単身、ご夫婦に最適)⑥

ID

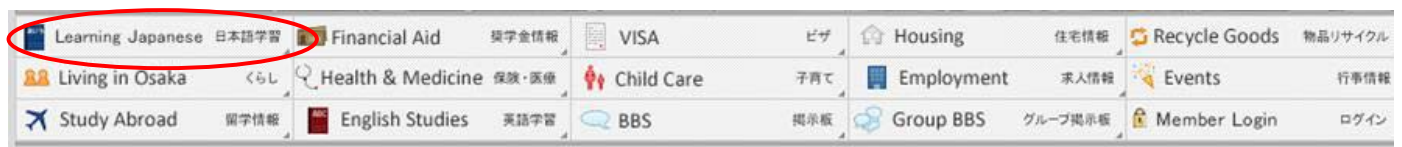
Password

Login

インターネット | 保護モード: 有効 100%



(1) 垂直モデル

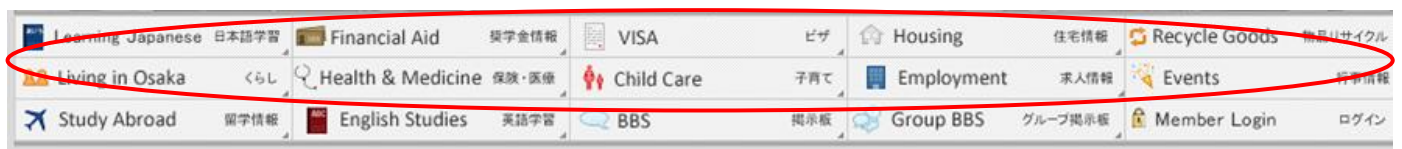


- 広いニーズに応える日本語教材
 - 独自開発した教材とローカライズした教材群
 - ID取得者増加への「キラーコンテンツ」
 - OSの変化(XPから7へ)
 - 内容の陳腐化(内容更新と著作権)
 - 学内オンライン教材の充実
 - 日本語教育関係者の関与

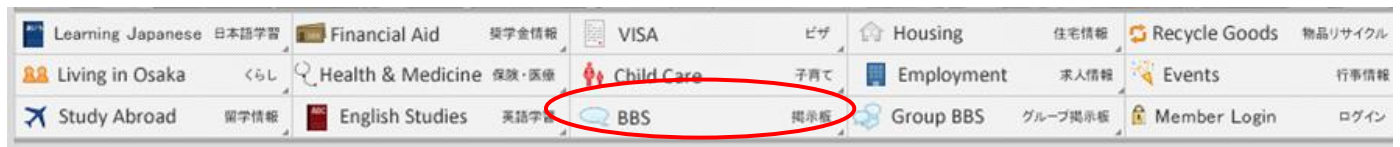


• 奨学金・ビザ

- 留学生にとっての「命綱」になる情報群
- ID取得へのインセンティブ
- 漏れなく周知をするための仕組み作り
- 大学選びを迷っている学生に対するのアピール



- 子育て・医療情報
- 人間科学研究科教員・大学院生の協力
 - 医療情報取り扱いの微妙さ
 - 更新にかけるマンパワー不足
 - 受診の際のテンプレート
 - 医療通訳ボランティア
 - 多言語による地震時の対応 (FM Cocoro)



(想定)

モスク(教会)は近くにありますか？

ハラルの食材が手に入りますか？

(実際)

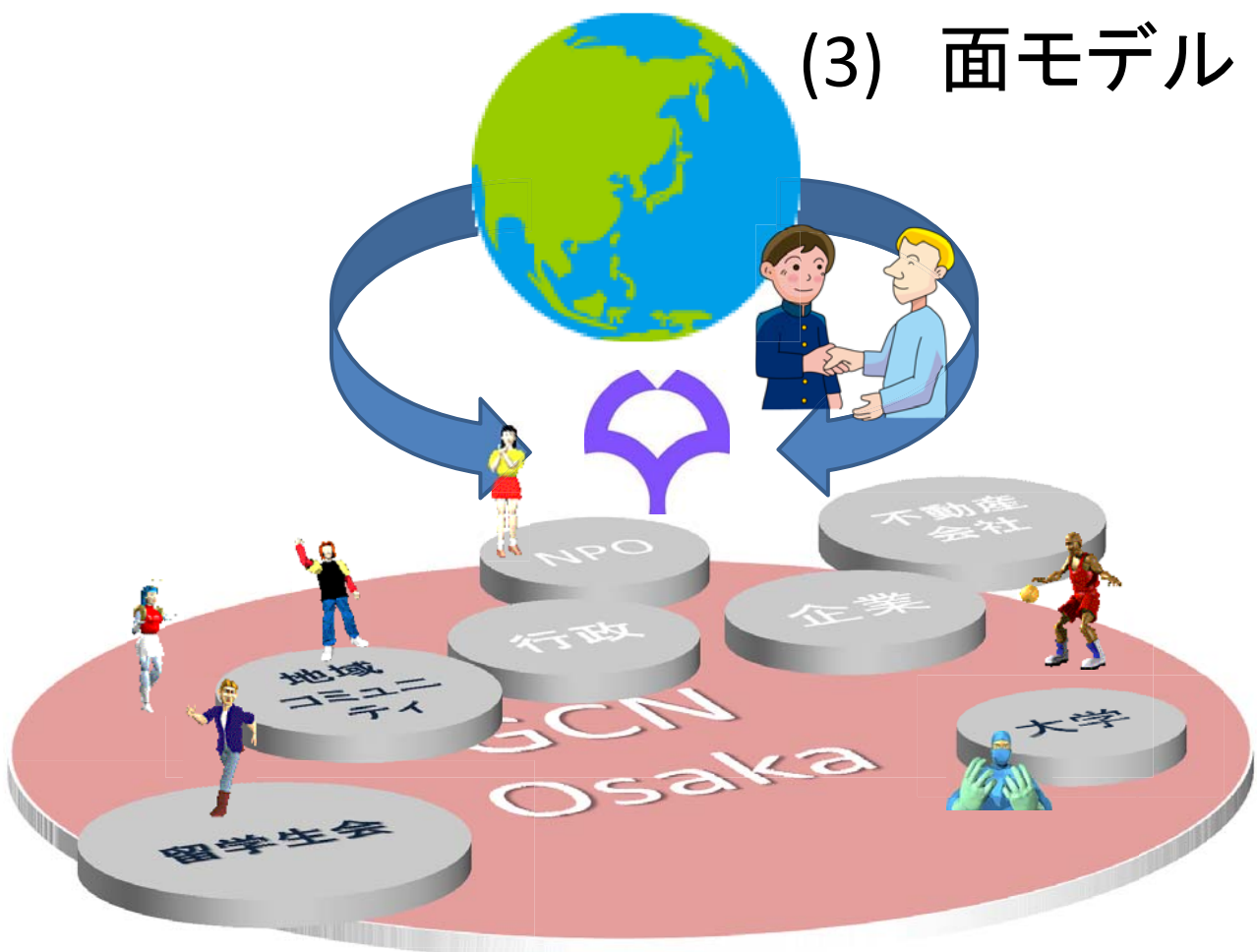
ガラス張りではない美容院はありますか？

A screenshot of the GCN Osaka website homepage as viewed in Internet Explorer. The browser's address bar shows the URL 'http://www.gcn-osaka.jp/gcn-ww/index.html'. The page features a navigation menu at the top with links like 'Learning Japanese', 'Financial Aid', 'VISA', 'Housing', 'Recycle Goods', 'Living in Osaka', 'Health & Medicine', 'Child Care', 'Employment', 'Events', 'Study Abroad', 'English Studies', 'BBS', 'Group BBS', and 'Member Login'. Below the navigation menu is a red banner with the GCN Osaka logo and the text 'Welcome to Global Campus Net, Osaka'. A Google search bar is also present. The main content area features a large blue banner with the text 'Worldwide network of Osaka University Alumni! /世界に広がる大阪大学同窓生オンラインネットワーク!'. Below this banner, there is a section for 'Handai Student Now' and a red box with the text '世界の阪大同窓生を検索しよう! Search for Osaka University Alumni in the World!'. The page footer includes a link to 'My Background and Memories associated with Osaka University' and a link to 'How to use Searching for Alumni / Message Delivery System "G-community"'. The browser's status bar at the bottom shows 'PC Information'.



- GCN WorldWide

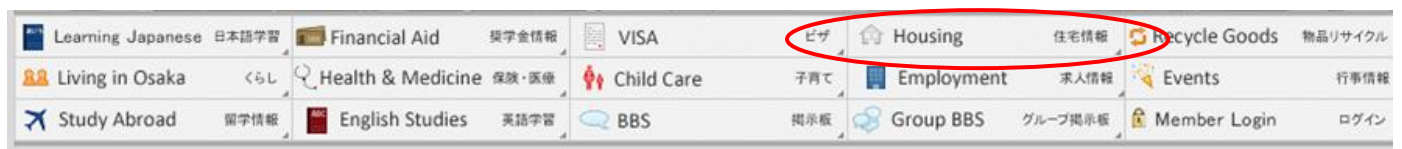
- Group BBS機能の拡張による「限定的メール発信システム」
- GCN IDは大阪大学身分がない「渡日前」「離日後」でも有効とする→Alumni的使用
- 地域同窓会（北米・タイなど）での使用
- 大阪大学同窓会と併存、共存、対立？
- SNS系サービスとの競合





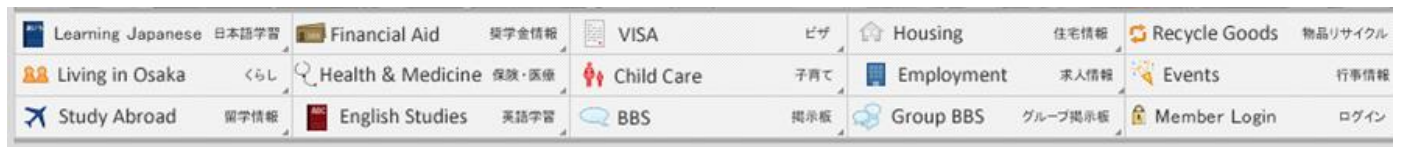
• 行政・地域団体

- 成熟した千里地域と地域国際化への高い関心
- 行政・地域団体からの情報発信ツールとして
- 留学生(研究者)をリソースとして
- 研究室に「閉じこもる」学生を情報過疎にしない
- 学生(研究者)だけでなく、地域住民となるチャンス!



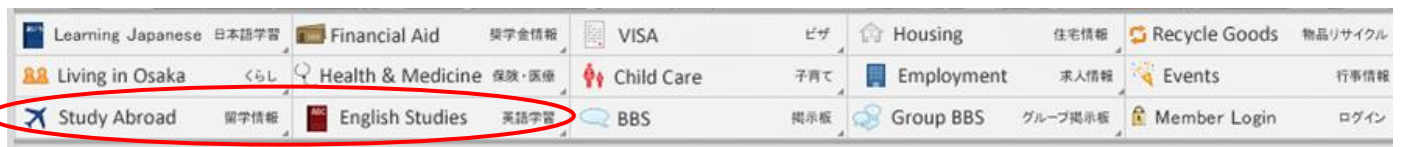
• 住宅(背景)

- 留学生・外国人向け学内外住宅の不足
- 支援企業の開拓(生協他)とポータル化
- プール型のみならずプッシュ型も
- 協力不動産会社との連携
- 英語等による「問い合わせ」の定型化と返信
- 契約や支払いには踏み込まない
- 学内宿舎退居後の受け皿開拓
- 「先輩→後輩」以外のルート確立



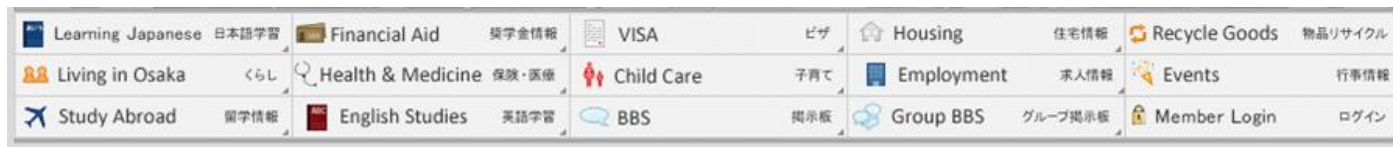
• 関空から・までの送迎

- 学生の増加
- 訪問者の増加
- 個別対応の難しさ
- 大学立地の利点と弱点
- より幅広い交通オプションの提供
- ニーズの掘り起こしとマーケット開拓
- 個人タクシーグループとの連携
- 契約や支払いには踏み込まない
- ID保持者へのインセンティブ



• 日本人学生の国際化

- 大阪外国語大学との統合
- グローバル30採択
- 海外留学マインドの向上
- キャンパスの国際化と留学生のリソース化
- SSプログラムの創成などによるチューター不足
- 留学生からの交流希望
- 外国語学部を中心とした学生からの交流希望



- 課題

- 「ac.jp」ではない利点と弱点
- 運営体制・基盤(特にポストG30期)
- 5年早すぎた? BBS
- 同窓会としてのオーソライゼーション(GCN-WW)
- 蓄積してきた個人情報(ID保持者)の管理
- 重点的「テコ入れ」分野の選定と管理

GCN

- <http://www.gcn-osaka.jp/>



教	育	環	境	分	科	会	選	出
---	---	---	---	---	---	---	---	---

教育環境分科会 2011 年度第 2 回会合 より

社会人基礎力の育成と
自己評価能力向上への取り組み
— 武蔵大学における三学部横断型
ゼミナール・プロジェクト —

武蔵大学 経済学部

笠原 一絵

2011年10月19日

サイエンティフィック・システム研究会
教育環境分科会第2回会合

社会人基礎力の育成と自己評価能力向上への取り組み ー武蔵大学における三学部横断型ゼミナール・プロジェクトー

武蔵大学経済学部
笠原 一絵

【要約】

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトでは、経済学部、人文学部、社会学部の学生がそれぞれの専門性を活かしながら、企業からの課題に対して協働して解決していく点に特徴がある。そのプロセスを通じて、学生の社会人基礎力を育成するとともに、自己評価能力を向上させることが可能となっている。

本ゼミナールを履修した学生は、口を揃えて「こんなに打ち込んで勉強したのは大学生生活で初めてのこと」と述べる。本講演では、学生がそんな達成感を得られる授業の仕組みや工夫点などについて紹介する。

【キーワード】

社会人基礎力、自己評価能力、CSR 報告書¹、SNS²、BtoB 企業³、キャリア・コンサルタント

1. はじめに

武蔵大学は開学以来、少人数制による「自調自考」のゼミナール形式の教育を重視してきた。この結果、自らの専門については深く思考し、同じゼミナールの学生同士や学生と教員の距離は比較的近く密接なコミュニケーションが図れるという長所を生み出した。その反面、異分野との接点が不足したり、限られた知り合いの中で過ごすことに慣れすぎてしまうなど、短所も見えるようになってきた。

変化の激しい現代社会においては、他者と積極的にコミュニケーションを取りながら業務を遂行し、物事に自主的・自律的に取り組む姿勢が必要とされている。しかし、本学における従来のゼミナールでは、この点での教育に難しさが生じてきたため、これまでのゼミナール教育の伝統と特徴を活かした試みとして、本プロジェクトが開始

¹ CSR ; Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)

² ソーシャル・ネットワーキング・サービス

³ BtoB ; Business to Business (企業間取引)

された。

本稿では、このプロジェクトの概要、目的とその効果について述べる。

2. 三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの仕組み

本プロジェクトは経済学部、人文学部、社会学部の三学部が合同で1つのチームを構成し（約 15 名程度）、各学部でこれまで学んだ専門性を活かしながら、企業から提供された「企業の CSR 報告書を学生の視点から作成する」という課題に取り組む。

プロジェクトは大きく前半と後半の 2 つに分けていて、前半のフェーズ 1 では学部ごと（各 5 名程度）に予備調査を行い、中間発表としてまとめる。具体的には、経済学部は企業経営の分析、人文学部はコーポレート・アイデンティティに関する分析、社会学部は CSR の歴史やメディアでの取り上げられ方、などを担当する。

後半のフェーズ 2 では三学部横断のチームを構成し、中間発表までの各学部の調査結果についての情報を共有しつつ、CSR 報告書の制作に向けた議論を重ねる。最終報告会では、企業担当者に CSR 報告書を配布して評価を受けると共に、制作過程やその間の社会人基礎力の成長についての発表も行う。

半期（約 15 週間）でプロジェクトが終了するため、学生はかなりタイトなスケジュールで取り組む必要がある。授業がスタートしてから中間発表会までは約 6 週、最終報告会までが更に約 6 週のスケジュールで行われる。（授業には最初のガイダンス、最後の振り返りなどが追加される。）

3. 三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの目的と教育効果を高めるための工夫

本プロジェクトにおいて学生が取り組む課題は「企業の CSR 報告書を学生の視点から作成する」というものだが、その過程を通じて、学生の社会人基礎力を伸ばすことが本プロジェクトにおける第一の目的である。社会人基礎力とは、経済産業省主催による企業の人事担当者や有識者から構成される研究会によってまとめられた「社会で働く上で必要になる能力」であり、社会（あるいは企業）が大学において育成することを求めている能力だといえる。

社会で働くということは、集団の中で働くということであり、社会人基礎力を育成する上では、チームで協力して活動を行う経験が不可欠といえよう。その意味では、授業を通じてチームでの活動経験を提供する本プロジェクトは、社会人基礎力の育成という目的にふさわしいものだといえるが、チームでの活動という点以外にも、社会人基礎力の育成を意識した以下の三つの仕掛けが組み込まれている。

- (1) 専門の異なる三学部の横断プロジェクト
- (2) 実際の企業の協力
- (3) SNS の利用やキャリア・コンサルタントとの面談を通じた正確な自己評価

能力の育成

本プロジェクトにおいては、専門の異なる三学部の学生が一つの課題に取り組むため、学生達は視点・利害の異なる他者と協同する際に生じる対立・葛藤を必ず経験することになる。とくに、授業前半（フェーズ1）においては学部ごとのチームで活動を行うため、そこで培ったチームワークが、学部横断になってから（フェーズ2）の学部ごとの対立に繋がる。対立・葛藤を乗り換える経験は、学生の視野を広げ、飛躍的に成長させるきっかけとなる。

また、通常のゼミと異なり、実際の企業の現場で働く方が授業に参加するため、学生にとっては「甘えの許されない」環境であるということも、社会人基礎力の育成においては重要である。残念ながら、教員と学生だけのゼミでは、少々遅刻しても、期限を守らなくても大丈夫、プレゼンテーションはなんとか形になればそれで良いといった甘えが生じてしまう場合がある。しかし、企業で働く大学外の方々に対しては、そういった甘えは一切通用しないということを学生達が自覚することで、社会人として働くための心構えを身に着けることが可能となる。また、学生が望む情報が企業秘密などの制約によって手に入らない、ゼミで学んだ専門知識が専門外の人たちには通用しないといった経験も、教員と学生だけのゼミでは得られないものである。

さらには、授業のために設計された専用 SNS の活用やキャリア・コンサルタントとの面談も社会人基礎力の育成において重要な要素である。本プロジェクトにおけるチームで全力を尽くすという経験は、学生にとって苦しさを伴うものの、ある種クラブ活動や文化祭のような昂揚感・達成感を味わうことのできるものである。そのため、ともすれば「単にお祭り騒ぎで盛り上がり過ぎて終わり」という結果を招いてしまう危険性がある。

そこで、本プロジェクトにおいては、単なるお祭り騒ぎで終わらせることなく、学生達の社会人基礎力の育成を行うため、学生が個人で活動を振り返る機会を設けている。学生達は毎回の活動を振り返り SNS 上において日記を書くことを求められる。これは、学生がチームではなく個人として活動を振り返り、自身を見つめ直す重要な機会となる。また、授業期間中に 3 回、キャリア・コンサルタントとの面談を受けることで、自分では気づかなかった長所や短所、取り組むべき課題などについて考え直すことが可能となる。

以上の社会人基礎力を伸ばすための仕掛け、とくに、SNS の活用、キャリア・コンサルタントとの面談は、正確な自己評価能力を向上という本プロジェクトにおけるもう一つの目的にもつながるものである。わずか 3 か月の間に社会人基礎力を完全に伸ばすということは不可能であり、また、本プロジェクトがあくまで大学生活の一部、124 の卒業単位のうちの 4 単位であることを考えると、授業期間のみですべてが完結するような設計はふさわしくない。本プロジェクトが学生に求めることは、授業期間終

了後も、現状を正しく評価し、社会人基礎力を伸ばし続けることである。そのために、授業期間内には、社会人基礎力という尺度、SNS における日記の執筆、キャリア・コンサルタントとの面談を利用して、自分自身に見つめ、自己を正しく評価する能力を身に着けさせることを目指しているのである。

4. キャリア支援へのつながり

一般に大学でのキャリア支援というと、企業への就職が最終目的となりがちであるが、本プロジェクトでは「学生の人間的成長を通じた生涯にわたるキャリア支援」という位置づけを明確にしている。これは、就職活動における表面的なエントリーシートの書き方や面接テクニックを教えるのではなく、その際のコンテンツを作り込むための経験の場を提供しているとも言える。

本プロジェクトを履修すると、学生は自分自身についてじっくりと振り返り、より根幹的な物の見方をするようになる。一度自己評価し自らについて表現出来るようになると、将来にわたり必要に応じてその能力は再現され発揮できると考える。その意味で、本プロジェクトの果たす役割は重要である。

さらに、学生は就職先に大手企業や知名度の高い企業を選ぶ傾向が高い。しかし、それは企業間取引を行っている企業や、消費者に対して広告宣伝を行わない企業の存在を知らないからであり、我々が協力企業として BtoB 企業を選ぶ目的もその点にある。協力企業である BtoB 企業について様々な角度から調べていき、企業担当者からの話をじっくりと聞くことで、学生は全く未知の世界が広がっていることに気付く。しかも BtoB 企業の役割とその重要性を認識すると、こういった企業で働くことの意義も見出していき、就職先の企業として選択肢を広げていくのである。

ただし、本プロジェクトとして協力企業の開拓をいかに組織的に進めていくかという点については、今後引き続き検討の余地がある。

5. 三学部横断型ゼミナール・プロジェクトに対する学生の評価

フェーズ 2 になり 15 名ほどの三学部横断のチームになると簡単には意見がまとまらず、しばらくは時間だけが過ぎてしまうこととなり、フェーズ 2 の後半に作業が集中する傾向が多い。そのため、学生は授業時間外での集まりの他に、自宅での作業や SNS でのコミュニケーションを頻繁に行う。家族や友人よりもチームで過ごす時間が増えていくことで、学部ごとの対立や葛藤を乗り越え 1 つの目標に向かって集中力を高め課題を達成していく。また、協働作業を行わなければ到達できない課題が設定されているので、課題を高い壁と感じていた学生ほど達成感は大きく、自信を持っていた学生ですら自らの非力さを痛感する。

平成 22 年度後期履修生 (N=57) を対象としてアンケート調査を行った結果、学部横断ゼミの授業全体に対する満足度は極めて高く、86%の受講生が「とても満足してい

る（４段階中４）」（図１）と回答している。ゼミの内容については、とくに「チームでの活動」（図２）「他学部の学生との交流」（図３）に対する満足度が高く、７割以上の受講生が「とても満足している（４段階中４）」と回答した。また、「キャリア・コンサルタントとの面談」（図４）も８割以上の受講生が「とても満足している（４段階中４）」「ある程度満足している（４段階中３）」と回答している。

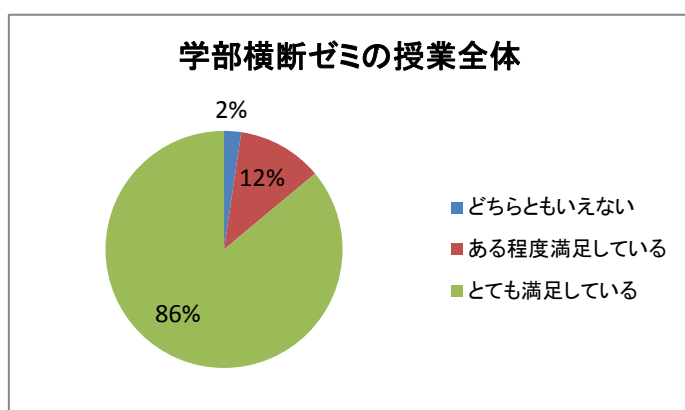


図 1

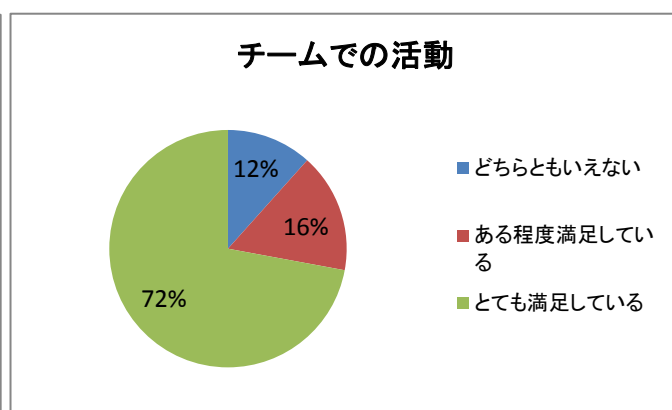


図 2

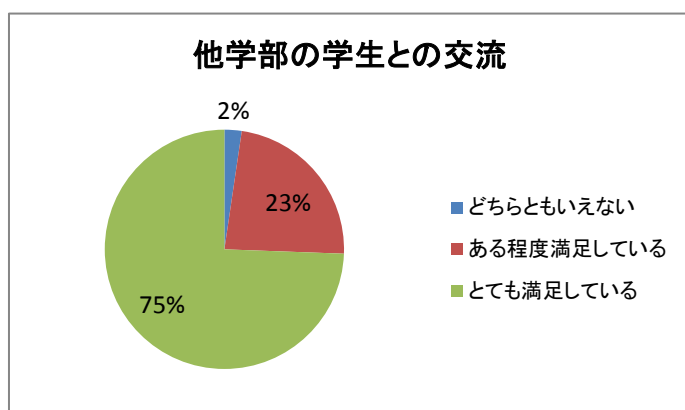


図 3

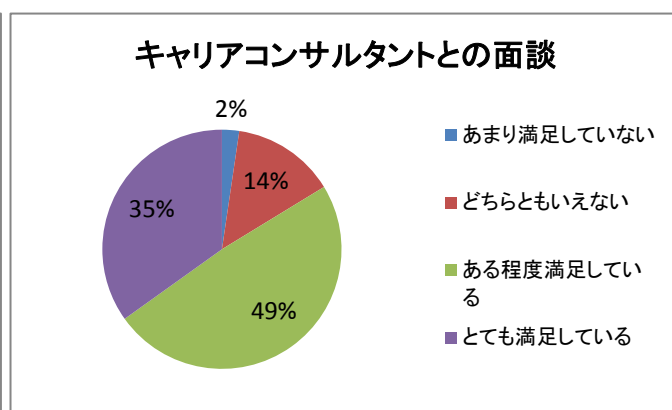


図 4

6. おわりに

本プロジェクトには学生にとって困難な仕掛けが設定されているにも関わらず、教員は学生の活動を見守るというスタンスであり、課題内容についての直接の手助けはなるべくしない。活動途中においては課題の困難さ、スケジュールの厳しさ、通常のゼミのように簡単に手助けをしてくれない教員に対する不満や反発がみられることもある。しかし、学生たちが困難な状況を自分たちの力で乗り越えたという感覚が学生にとって大きな自信となるのである。



三学部横断型 ゼミナール・プロジェクト

Three-Faculty Crossover Seminar Project



サイエンティフィック・システム研究会
2011年10月19日

武蔵大学経済学部 笠原 一絵

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
 - SNSを通じたコミュニケーション
 - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの背景

- 「知と実践の融合」と「ゼミの武蔵」の伝統
 - 少人数制
 - 自調自考のゼミナールを重視
(全学部1年から4年までゼミが必修)

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの背景

- 少人数教育のメリット
 - 経済・人文・社会という文系の3学部が4年間ひとつのキャンパスで過ごす
 - 学生と教職員の距離が近い

武蔵大学の特徴を活かしたプロジェクト

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの背景

• 少人数教育のデメリット

- 仲間うちの小さなコミュニティで満足してしまう学生が少なくない
- 大勢の前で主張を行うことや、異質な他者との協働を苦手とする

このような弱点を補うものとしてのプロジェクト

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトとは？



他学部や企業との連携

経済学部

Economics

人文学部

Humanities

社会学部

Sociology

企業からの
課題

⇒ 学生がそれぞれの専門性を活かしながら、協働して課題を解決していく点に特徴。

企業からの課題

学部横断で一つのチームを構成し、担当企業のCSR報告書を作成。

『CSR(企業の社会的責任)』とは？

持続可能な社会を実現するため、企業が社会や環境に対する問題意識を自主的に事業活動や経営に組み込んでいくこと。

⇒CSRという概念を理解するには、異なる複数の視点から企業の活動を見ることが要求される。

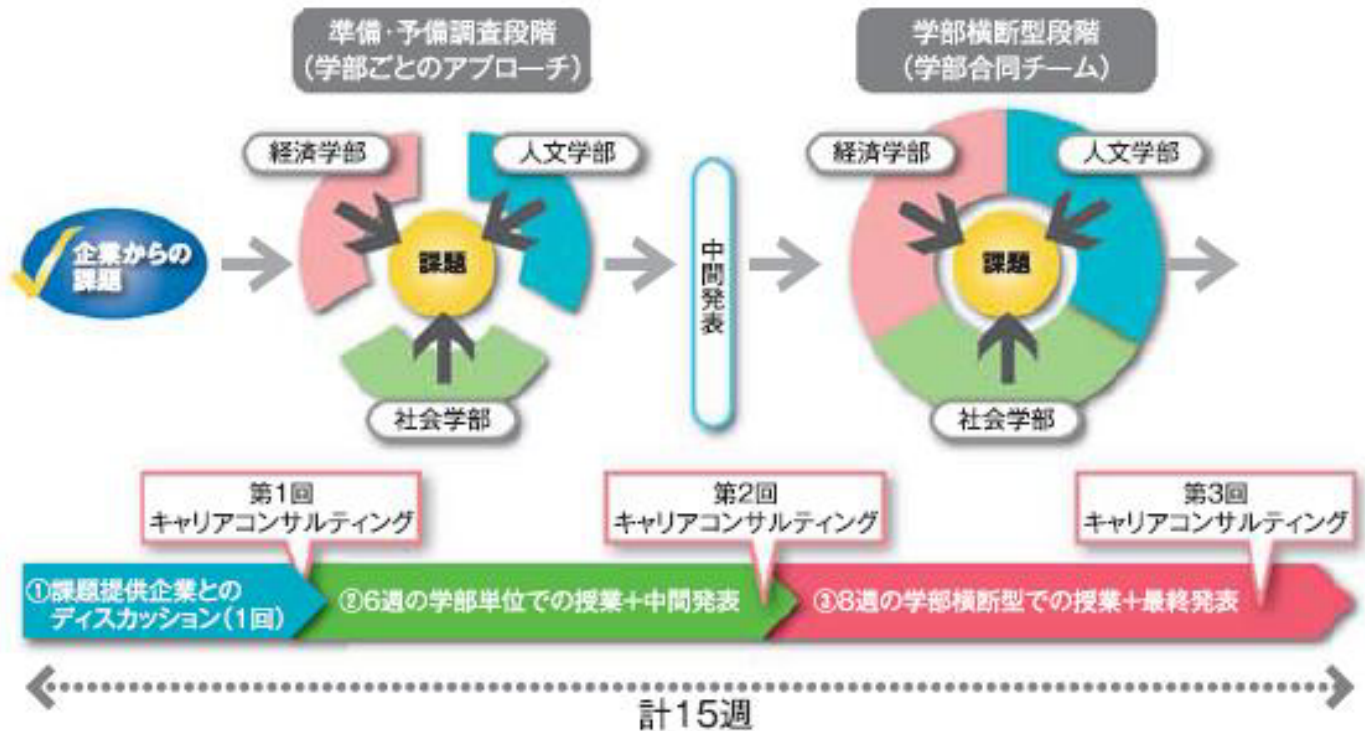
目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
 - SNSを通じたコミュニケーション
 - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

本プロジェクトの仕組み

プロジェクト履修期間: 1セメスター(前期/後期)



課題: 担当企業の「CSR報告書」を作成する

本プロジェクトの仕組み(フェーズ1)

経済学部 Economics

事業内容・流通ルート・財務などを調べる

人文学部 Humanities

企業が重視している理念や企業文化を読み取る

社会学部 Sociology

CSRという概念自体を調べる

本プロジェクトの仕組み(フェーズ2)

経済学部

Economics

人文学部

Humanities

社会学部

Sociology

CSR報告書の作成

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
 - SNSを通じたコミュニケーション
 - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

本プロジェクトの目的

1. 社会人基礎力の養成
2. 正確な自己評価能力の育成
3. CSR報告書の作成を通して、社会的責任を果たすことの意義の理解

本プロジェクトの目的(1)

社会人基礎力の育成

「社会人基礎力とは、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」(経済産業省)

社会人基礎力の項目

前に踏み出す力

- 主体性
- 働きかけ力
- 実行力

考えぬく力

- 課題発見力
- 計画力
- 創造力

チームで働く力

- 発進力
- 柔軟性
- 規律性
- 傾聴力
- 状況把握力
- ストレスコントロール力

大学で社会人基礎力が求められる理由

実社会で働く上で
役立つ能力の育成



就職活動の困難さ



新入社員教育の
余裕が不足

学部横断ゼミを通じた社会人基礎力の育成

- 大学教育の場においても、社会人として必要となる能力の育成が必要
- ESや面接のテクニックではなく、**学生の人間的成長**を通じたキャリア支援
 - 学生にとっては、エントリーシートや面接の「**テクニック**」を磨くのではなく「**コンテンツ**」を作ることに繋がる

学生たちが直面する問題の例

- (学部ごとに活動する)授業前半に培ったチームワークが、学部横断になってからの**学部ごとの対立**に繋がる
- ゼミで習った知識・技術(財務諸表分析や社会調査など)を使いたいが、課題にうまく合わない、**他学部の学生に理解してもらえない**
- 欲しい情報が**企業の制約**によって得られない
- 企業の担当者の方から、「**CSRというが、企業はNPOとは違うので、利益を出さなければならない**」と言われる

これらを乗り越えることで
学生達は飛躍的な成長を遂げる

社会人基礎力を伸ばすためのしかけ

学部横断であること

視点・利害の異なる他者と協同する際に生じる
対立を建設的な方向で解決することを学ぶ

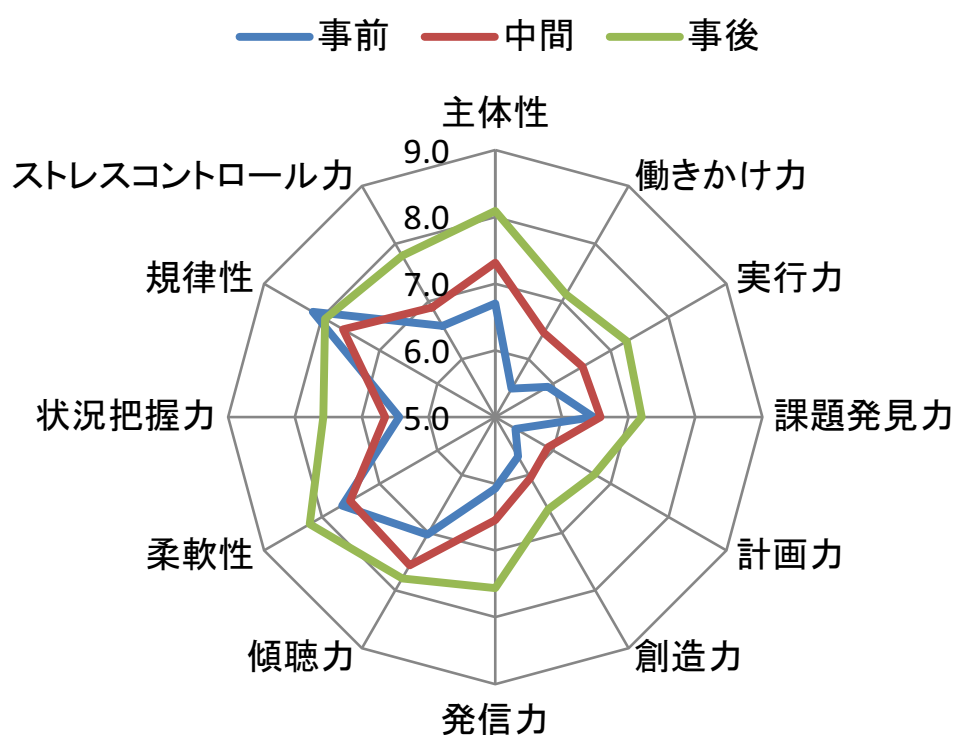
企業様の協力

甘えが許されない環境

キャリア・コンサルタントとの面談・SNSの活用

就職活動はもちろんのこと、その後の生涯学習へと
繋がる**正確な自己評価能力**の育成

社会人基礎力の伸び (平成22年度後期履修生) N=57



本プロジェクトの目的(2)

目的②: 正確な自己評価能力の育成

- 社会人基礎力を指標として自己評価を実施
 - 自己評価シートの記入
- キャリアコンサルタントとの面談
 - 気づかなかった自分の強みや弱みを把握

社会人基礎力 行動計画シート(1/2) 学部: _____ 氏名: _____ <記入日> _____ 年 _____ 月 _____ 日>

「社会人基礎力アドバイスシート」と下記の記述例を参考に、1.現状の行動(あるいは改善の理由)、2.目標とすべき行動、3.目標に向けた具体的な取組)について記述してください。

<記述例>

現状	現状の行動(あるいは改善の理由)	目標とすべき行動	目標に向けた具体的な取組
基礎力	「生活や業務のフロー」から業務の流れを把握することができない	生活や業務のフローを把握するための取組(フローチャート作成)	「生活や業務のフロー」を把握するための取組(フローチャート作成)

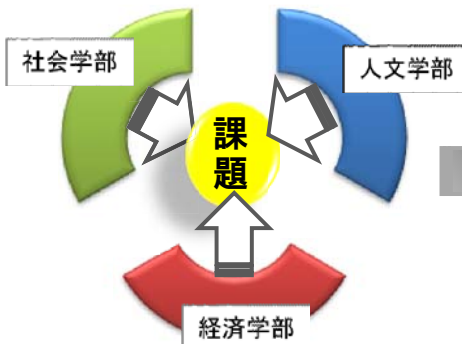
	1.現状の行動(あるいは改善の理由)	2.目標とすべき行動	3.目標に向けた具体的な取組
1. 実務力			
2. 働きかけ力			
3. 実行力			
4. 情報活用能力			
5. 計画力			

キャリアコンサルタントとの面談

phase1 準備・予備調査段階
(学部ごとのアプローチ)

phase2 学部横断型段階
(学部合同チーム)

第一回面談



第二回面談



第三回面談

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
 - SNSを通じたコミュニケーション
 - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

自己評価能力を育成するために

- 独自で構築したSNSを活用
 - 企業の方への質問
 - 学生同士のやりとり
 - 日記の記入
- 毎授業ごとに、その日の自分の活動を振り返る。
- 授業で何ができて、何ができなかったのかを考える。
 - 自分と向き合う活動



プロフィール作成のルール

- キャリアコンサルティングの資料となるため、学習歴、サークル歴、バイト歴、キャリアに関しての将来の希望や考え方等について書く。
- 顔文字や記号は控える。
- 氏名は本名で登録する。
- 写真は100KBまで。本人の顔をきちんと確認できる写真を使用する。

なぜ日記を書くのか(学生への説明)

①自分自身を見つめる

→「何ができたか、何を考えたか」など具体的な体験を書き、他のメンバーの日記を読んでいくことで、自分自身を知ると共に、それを他者に伝えられるようにする。

②メンバーやグループ全体に目を向ける

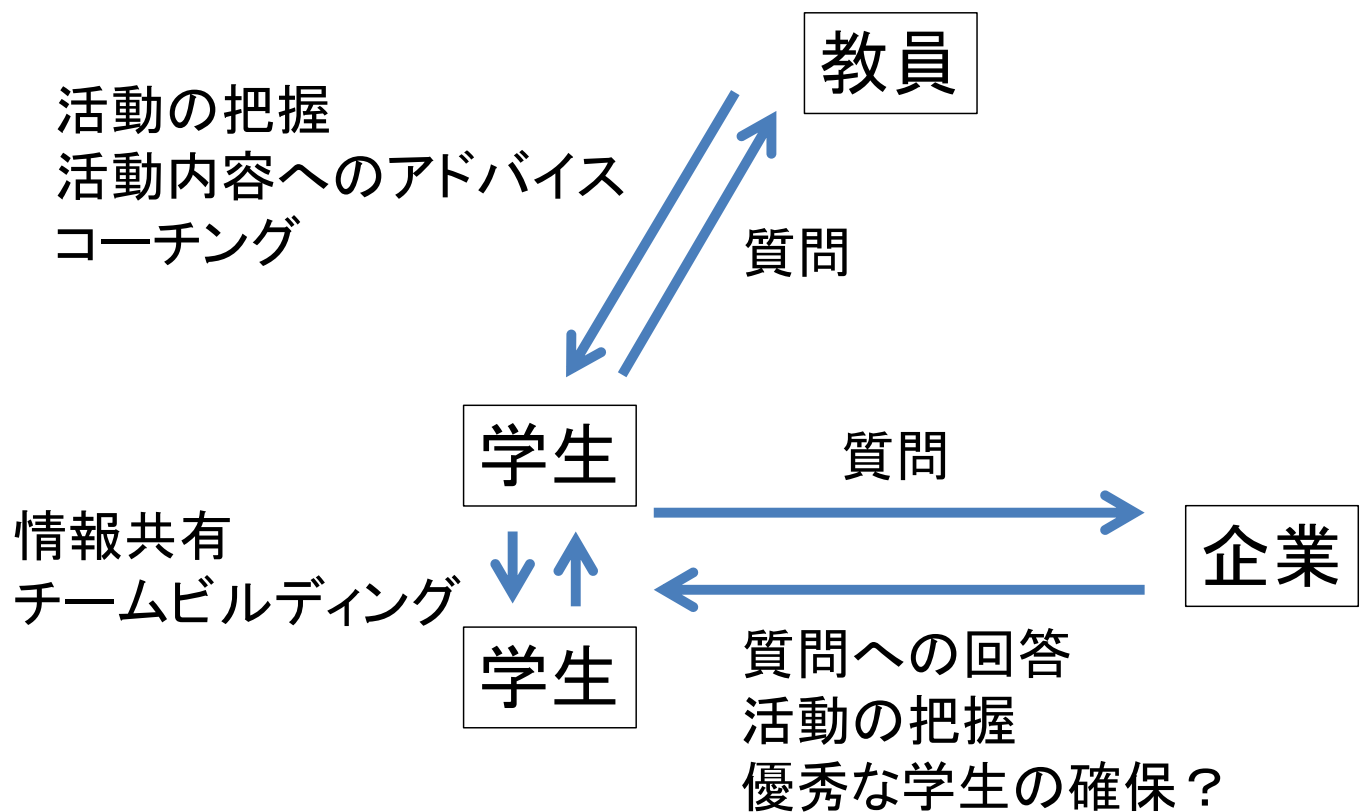
→「メンバーのどんな能力に助けられたか」、「どんな資質がリーダーに必要なことがわかったか」などを書くことによって、お互いの考えを知る。それを通じて、チームワークが形成されていく。

③活動を今後の成長につなげる

→「どんな壁にぶつかったか」、「意見の対立をどのように受け止め、どう解決しようと試みたか」などを書くことによって、今後の成長につながる。

※例えば、エントリーシートの書き方へとつながる

SNSを通じたコミュニケーション



SNSを通じたコミュニケーション

- 日記
 - お互いの日記に対するコメント
- グループ
 - ファイルのアップ
 - スレッド上での議論
- メッセージ

グループの作成

※SNS内では、グループ(コミュニティ)を作り、ゼミメンバー同士や企業の方とやりとりをする。

- グループは、「SNS管理者」が開設する。
- グループ名は、所属学部＋担当企業名。(ゼミ内用)
例) 経済学部、エバオン担当→経済エバオン担当グループ

- 企業とのやりとりを行うグループを作成する。
グループ名は、合同＋担当企業名。(企業用)
例) 合同、稲畑香料担当チーム→合同稲畑香料C担当グループ

- 三学部間でやりとりを行うグループを作成
グループ名は、横断＋担当企業名。(横断用)
例) 横断、ミクニ担当チーム→横断ミクニ担当グループ

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
 - SNSを通じたコミュニケーション
 - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

対面でのコミュニケーション

- 学生同士は通常対面での回数が増えるごとに、打ち解けていく
- 教員のスタンスは見守る姿勢
- SNSにおける発言、授業での状況、課外活動での様子を総合的に判断
 - 学生同士がコミュニケーションを取りやすいように後押し
 - 議論が出来ない場合は、本人と個別に対応
 - 場合に応じて、チームメンバーからのサポート
- タイミングを重視

本プロジェクトの目的(3)

目的③: CSR報告書の作成を通して、社会的責任を果たすことの意義を理解

- 社会について考える力の育成
- 現代社会を生きる上で必要となる「多様な視点」を身につける

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
 - SNSを通じたコミュニケーション
 - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

協力企業

- 一般消費者や学生には知られていないが、その業界に関わる人であれば誰でも知っている企業
- 大企業ではないが、独自の魅力的な製品・サービスを提供している優良企業
- 協力企業を探すのは一苦勞
- 協力企業からのコメント

協力企業

2008年前期	2008年後期	2009年前期	2009年後期	2010年前期	2010年後期	2011年前期
(株)鷺宮製作所 	(株)Advanex 	愛知産業(株) 	オリエンタル モーター(株) 	スガツネ工業(株) 	稲畑香料(株) 	東光電気工事(株) 
(株)牧野フライス 製作所 	SMK(株) 	並木精密 宝石(株) 	長野計器(株) 	大陽ステンレス スプリング(株) 	(株)コガネイ 	エバオン(株) 
				(株)フォーバル 	(株)不二製作所 	(株)TOZEN 
				リオン(株) 	(株)ミクニ 	星光PMC(株) 

学生の視野を広げるために企業間取引(B to B)中心の企業

学生の就職志向

- 学生たちは、大企業志向というよりは**有名企業(B to C)志向**
 - なぜなら、B to B企業を知らない
 - 膨大なB to B企業の中から志望企業を選択する
すべを知らない
- 保護者はさらに顕著？
 - 「そんな名前も知らないような企業に入れるため
に大学に行かせたわけではない」

課題提供企業(大企業)の例

- 長野計器株式会社
 - 東証一部上場、従業員数2012名
- 株式会社ミクニ
 - 東証二部上場、従業員数1722名
- 東光電気工事株式会社
 - 東証一部上場、従業員数1046名

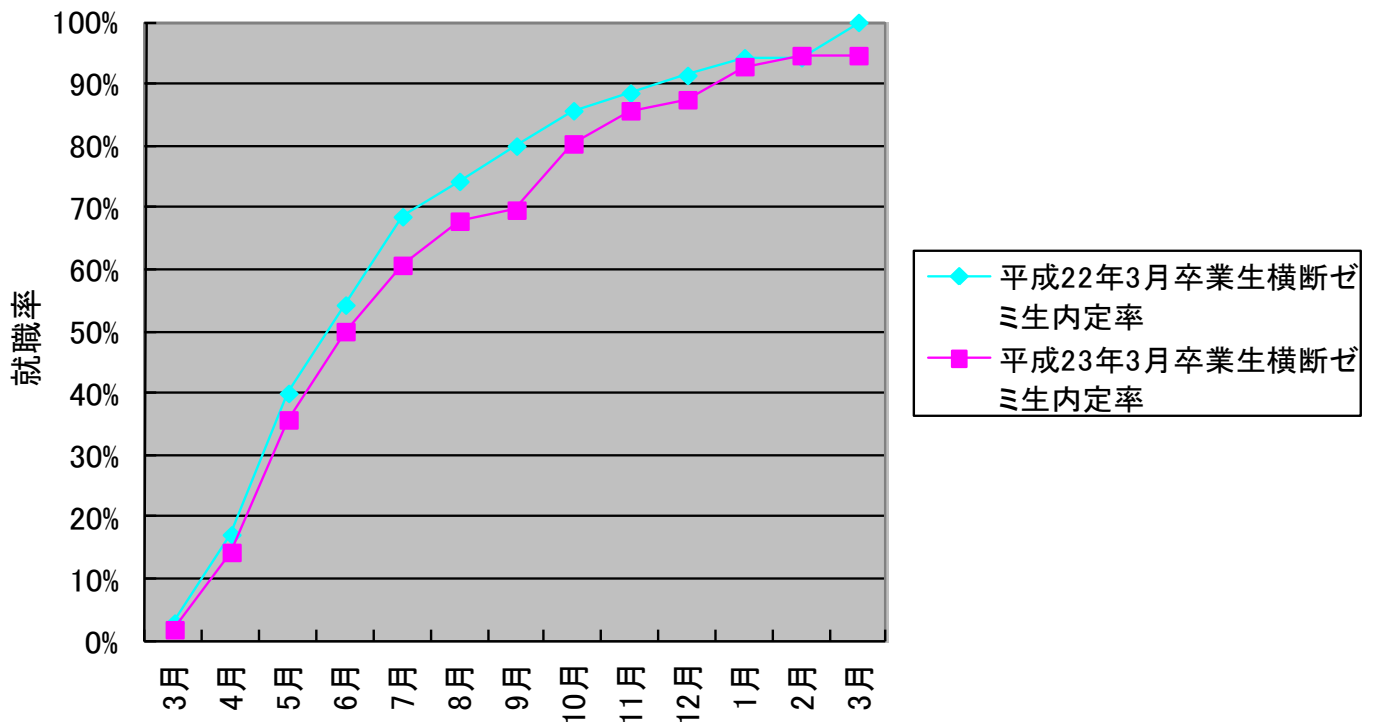
「(学生の知らない)大企業」も含まれる

横断ゼミOB・OGの就職活動

- 有名企業・大企業に挑戦することを躊躇しない
- 知名度以外の多様な評価軸を持っており、自分に合ったB to B企業、中小企業を探し出すことができる
- エントリーシートやグループディスカッションの通過率が高い
- 内定率が高く内定時期が早い

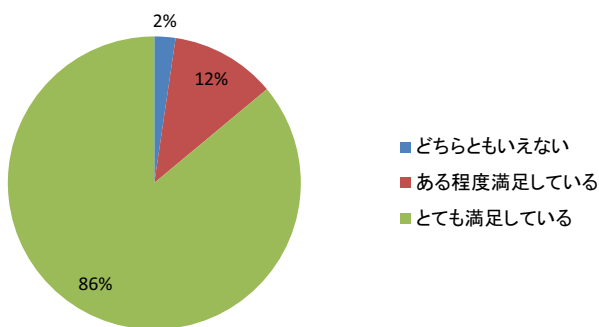
履修生就職内定率の月別推移 (平成21年度、22年度卒業生対象)

履修生就職決定月

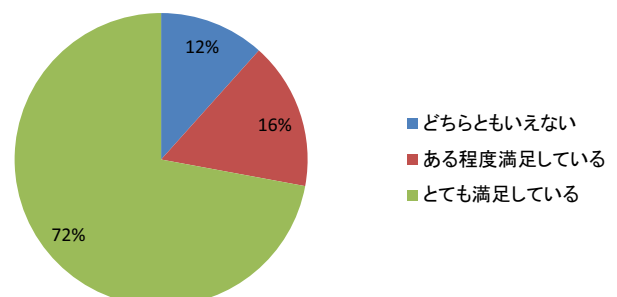


授業に対する学生の満足度 (平成22年度後期履修生) N=57

学部横断ゼミの授業全体

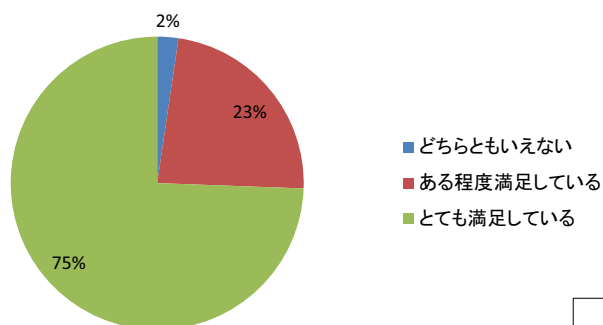


チームでの活動

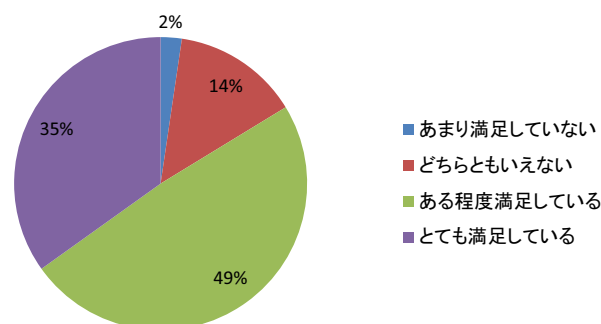


授業に対する学生の満足度 (平成22年度後期履修生) N=57

他学部の学生との交流



キャリアコンサルタントとの面談



プロジェクトの推移



目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
 - SNSを通じたコミュニケーション
 - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他